

NEWS 絆

東北生産性本部

第42回仙台シンポジウム 11月例会開催

人口減少社会における労使の役割
～連合「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて～

第42回仙台シンポジウム11月例会は、日本労働組合総連合会 会長 神津 里季生氏を講師にお迎えし、約50名の参加を得て開催いたしました。

■ 11月例会（2019年11月13日開催）

講師 日本労働組合総連合会 会長 神津 里季生 氏

プロフィールなど

1956年生まれ。1979年東京大学教養学部卒、同年新日本製鐵株式会社入社。2002年新日鐵住金労働組合連合会会長、2006年日本基幹産業労働組合連合会事務局長、2013年日本労働組合総連合会事務局長、2015年10月より現職。

【ご講演要旨】

我が国を取り巻く、人口減少、少子高齢化、低成長、格差拡大などの諸問題の解決に向け、将来世代のために労使が果たすべき役割とその方向性について、海外の事例も交え、ご講演いただきました。

○労働組合とは

- ・労働組合はつながりを大事にする組織。連合はタテ（48の産業別組合）、ヨコ（47地方連合会）からなっている。
- ・働くことを軸とし、「学ぶ」「くらし」



「離職」「健康・長寿」を橋で結び、安心社会を構築していく。

○「賃上げ」の意味

- ・わが国では97年以降賃金下がっているが、これは非正規雇用の拡大によるもの。
- ・また、大企業と中小の格差も拡大した。
- ・大企業の労組組織率が45%であるのに中小は0.9%というのが大きな要因。

○働き方改革のポイント

- ・罰則付きの時間外労働の上限規制を導入したことは画期的だが、8割の企業に労組がない状況でどこまで実効性があるか懸念。
- ・労組のない企業でも労働者の意見が適切に反映できるよう、労働者代表の常設化に関する法制が必要。

○将来世代のこれから

- ・高齢化が本格的に進展するのは、これから。
- ・財布の債務が家計の貯蓄を上回るのは2030年頃と予測されており、国債の暴落が懸念される。
- ・政府の債務のGDP比は200%を超えており、すでに戦時中を超えている。
- ・この背景には重要課題を先送りする体質がある。
- ・課題の解決に向け、党派を超えて議論し、政策づくりをしていくことが必要。
- ・わが国の若年者の投票率向上のため、学校等における「主権者教育」の定着が重要な課題。

以上、大変有意義なご講演ありがとうございました。

第42回仙台シンポジウム (2019年度)

*会場：仙台商工会議所会館7階 大会議室

【今後の開催予定】

12月例会 2019年12月3日(火) 13:30~15:00

『2020年 世界の潮流を読む』

講師：(一財)日本総合研究所 会長 寺島 実郎 氏